

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します

会報/市民後見人の会 No. 202

2024年9月20日発行 通巻 No.212号

創刊 2007年2月23日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井 1-15-1 品川成年後見センター分室 3階

TEL : 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の 10時～16時の間対応します。)

TEL&FAX : 03-6303-8265

MAIL : npokouken@gmail.com HP : <http://www.shiminkoukenninnokai.jp>

◆ 終わりよければすべて良し??の後見活動終了 ◆

皆さんはコロナ禍での「緊急事態宣言」や「まん防」という言葉を覚えておられますか？ 本会が 51 番目に受任した Y さんの後見活動が始まったのは 2021 年 1 月、第 2 回の緊急事態宣言が出されてすぐのことでした。様々な行動制限の中、日本中が感染を恐れて神経質になっており、後見活動も様々な制約を受けました。ご本人との顔合わせも済んでいない 1 月 14 日、区の担当者から「Y さんが外で転んで救急搬送中だが対応してもらえますか」という電話が。ケアマネより「入院はできなかったのでショートステイを利用したい。ついては手続きのため施設に来てほしい」との連絡。副担当と急ぎ施設に向い、Y さんと初対面の挨拶もそこそこに利用契約について説明を受ける。ほっとして帰路についたバスの中、また電話が鳴り施設に逆戻り。38.5 度の発熱のため受け入れ不可となり自宅で様子を見ることになった。翌日、往診医の手配で、再度救急車で入院を試みるもやはり発熱で不可。コロナ禍の厳しさの洗礼の第 1 発目である。その後のドタバタは会報 164 号(2021 年 7 月)を HP で見て欲しい。とにかく施設入所までの半年は、ほとんど毎日どこかから連絡がはいる気の抜けない日が続いたのである。

市民後見人として Y さんにどのように寄り添っていくかが常に頭の中にあっただが面会は短時間で済ませねばならず、施設入所後も月に 1 回 20 分程度、時にはオンラインでの制限があり、Y さんがこれまでどのように過ごされてきたのか、ご家族は、友人は、今後どのように過ごしていきたいのかお伺いしたいことは山ほどあるのに、その大前提の信頼関係を作る時間が少なすぎるという問題がいつも隣にあった。しかし Y さんの穏やかな人柄もあり面会を継続していくうちに笑顔で出迎えて下さるようになり「来てくれて嬉しいわ」「会いたかったのよ」という言葉を頂けるようになったのである。待たれている存在になれたことは嬉しいことであった。

今年の 3 月の面会時に「今度くる時はおみかんが食べたいわ」とおっしゃっておられたのに、4 月の初めに体調を崩され入院された。これまでも発熱したりコロナに罹患しても元気に回復されていたのに入院が 1 か月超に及んだ。医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・施設長・施設職員・後見人とのカンファレンスでは積極的延命治療よりも、施設に戻って見知った顔に囲まれての看取りが良いのではという結論になり Y さんは施設に戻る



ことになった。このカンファレンスは Y さんの気持ちに寄り添った非常に良い内容であったと思う。実際に退院時には無表情で反応が薄かった Y さんが施設に到着し職員から「おかえりなさい」の声掛けがあった時には笑顔になったのである。看取りの 10 日間は、多くの職員が始終気にかけて下さり様子を伝えて下さった。Y さんと会話できる時には「ありがとう。また来てね」と言って下さることもあり、「かわいい」「私死ぬの？」と訴えることもあり、そんな時は手を握って「元気を送りますね」と目と目で会話することもあった。そして痛みやお苦しみは少ないまま 5 月 17 日に静かに旅立って逝かれたのである。葬儀は私と杉山会員二人の見送りであったが、幸いなことに 50 年近く疎遠であった甥御さんと連絡がとれ Y さんは現在、妹さんの眠る目黒アンセルモ教会の納骨堂で妹さんと並んで眠っておられるのである。(担当 渡橋理恵記)

～事務所図書を紹介～貸出しています※事務所に 2 冊ございますので、ぜひご覧ください。

「高齢者を支える市民・家族による新しい地域後見人制度」遠藤英嗣 著

第 1 章は、市民後見人の役割や心構えなどについてわかりやすい言葉で説明されています。ぜひ第 1 章だけでもご覧になって頂きたいです。市民後見人の実践コメントも掲載されていますので参考になります。著者の遠藤弁護士には、本会業務指導委員会でもお世話になっています。

☆☆☆第 49 回月曜カフェのご案内☆☆☆申込は riewk1109@gmail.com 渡橋まで
9 月 30 日 (月) 荏原第五地域センター 10:00~12:00

スピーカー：今藤 里子会員 ～遺贈寄付と遺言書について～

★★★第 50 回月曜カフェのご案内★★★ 後日、改めてメールでご案内いたします

11 月 16 日 (土) 13:15~ テーマ：(仮) 認知症の被後見人と向き合って

1 部 (13:15~15:00) 後見活動経験者の話と参加者による意見交換

2 部 (15:00~16:30) 自由に懇談する交流会 (飲み物・軽食をご用意します)

50 回を記念して、多くの方に参加して頂きたく土曜日を開催いたします。普段は参加しにくい会員さんどうぞご参加下さい。皆さんの参加をお待ちしています。

〈今後の予定〉

・ふくしまつり 2024 9 月 28 日 (土) 10:00~15:00 中小企業センター 2F

****お時間のある方は、どうぞお立ちより下さい。

・月曜カフェ 9 月 30 日 (月) 10:00~12:00 荏原第 5 地域センター

・後見記帳日 10 月 1 日 (火)・監督人・後見人等連絡会 10 月 15 日 (火) 15:00~

・スキルアップ講座 10 月 18 日 (金) 13時半~15時 中小企業センター

・理事会 10 月 21 日 (月) 15:00~ ・忘年会 12 月 21 日 (土)

敬老の日になんで、百歳以上の高齢者の数は、昭和 38 年には全国で 153 人でしたが、今年は 95,119 人。団塊の世代が後期高齢者となる来年以降は、○医療や介護、生活支援などのニーズが増える ○現役世代人口が減少し、高齢者の生活を支える担い手が不足する ○社会保険費の負担が増えるなど問題が山積しています。品川区も以前より様々な高齢者施策を行っていますがなかなか身近に感じる事ができません。市民後見人のニーズも高まっていくと思われます。会員間での交流を増やし、ともに学んでいけたらと思っています。

(編集 渡橋理恵)